

サニナビ

北九州



北九州市保健所
東部生活衛生課
広域食品指導係
小倉北区馬借 1-7-1
4階
TEL 093-583-2048
FAX 093-583-2044

油断大敵!! ノロウイルスの感染力について



12月に入り木々も落葉して、ようやく冬らしくなってきました。
冬は寒さがつらい季節ですが、同時に二枚目の人気者「カキ」が旬を迎える時期でもあります。

カキなどの二枚貝はノロウイルスを体内に蓄積することがあり、加熱不足等で不活化されなかったノロウイルスを摂取することで食中毒が発生します。

ノロウイルスは夏期の高温時よりも冬の低温時の方が生存期間が長く、乾燥にも強いいため、冬期に食中毒発生件数が増加する傾向にあります。

また、ノロウイルスは感染力が非常に強いことも特徴の一つで、10〜100個程度のウイルスを摂取することで感染します。

ヒトの腸内でのみ増殖することができ、患者由来の嘔吐物、便には1g中100万個から10億個もの大量のウイルスが含まれています。

そのため、ウイルスを含む嘔吐物等が乾燥して小さな粒子になったものが空気中に舞い上がり、これを吸い込むことによって感染することがあります。これを「塵埃(じんあい)感染」と言います。



過去にはノロウイルスの強い感染力も相まって「塵埃感染」による大規模な集団感染も発生していますので、一例をご紹介します。

大規模な塵埃感染事例

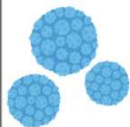
平成18年12月に東京都内の25階建て大型ホテルでノロウイルスの集団感染が発生しました。発症者数は12月2日〜10日の利用客364名(うち12月2日、3日の利用客は30名)とホテル従業員72名の計436名にのりました。

保健所の調査の結果、宴会食そのものからはノロウイルスは検出されず、厨房の調理員は無症状で便からもノロウイルスは検出されませんでした。

また、発症者全員の共通食がなく、ホテルで調理した食事を食べていない利用客、ホテル従業員も多数発症しました。

このため、飲食による食中毒とは断定できませんでした。

さらなる調査で、利用客の一人が12月2日に、多くの発症者が利用した3階と25階の西フロアで、宴会場前の通路の絨毯上に嘔吐していたことが判明しました。また、絨毯上の嘔吐物の処理は洗剤で清掃したのみで、ノロウイルスの消毒には十分な状態でした。



このことから絨毯に感染力のあるノロウイルスが大量に付着した状態で乾燥してしまい、その後、絨毯上を人が歩いたり、掃除機で清掃してしまったことによって、空気中にノロウイルスが飛散し、これを吸い込むことで、大規模な「塵埃感染」が発生したと推察されました。

嘔吐物の処理方法



ノロウイルス感染が疑われる場合、嘔吐物は次の方法で速やかに処理を行い、二次感染を防止することが重要です。

- ① 使い捨てのマスクやカウン、手袋などを着用します。
- ② ペーパータオル等(市販されている嘔吐物凝固剤等を使用することも可能)で静かに拭き取り、0.1%次亜塩素酸ナトリウムで消毒後、水拭きをします。
- ③ 拭き取った嘔吐物や手袋等は、ビニール袋に密閉して廃棄します。その際、できればビニール袋の中で、0.1%次亜塩素酸ナトリウムに浸します。
- ④ しぶきなどを吸い込まないようにします。
- ⑤ 終わったら、丁寧に手を洗います。

消毒液(次亜塩素酸ナトリウム)の作り方については、北九州市のホームページ「次亜塩素酸の取扱いについて」をご覧ください。

【<https://www.city.kitakyushu.lg.jp/files/000781451.pdf>】



りんごの試食で157食中毒発生



茨城県の発表によると、11月5日、県内の果樹園で試食用のりんごを食べた観光客47人のうち、6歳から80代の12人が下痢や腹痛などの症状を訴えました。

このうち5人が入院し、6歳の男児と70代の女性が集中治療室にて治療を受けました。

保健所が調べたところ、患者は果樹園の従業員がりんごを16等分できる専用カッターで切り分けたものを食べたとみられ、検査の結果、患者や従業員の便から腸管出血性大腸菌O157が検出されました。

このことから、県はりんごを提供する過程で何らかの汚染が原因となった食中毒と断定しました。

ポイント

りんご等の果物は基本的に加熱することなく食べるものです。カット等して提供する場合は、包丁、まな板等の器具の洗浄、消毒や手洗いを徹底しましょう。

また、食品添加物に指定されている次亜塩素酸ナトリウム等で果物を消毒することで、より効果的に食中毒を予防することができます。

編集後記

師走を迎え、大変お忙しい時期となりました。お体には十分お気を付け下さい。今月の写真は果物の王様「ドラリアン」です。

